



# 校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ヶ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成30年3月23日

第30号

## 「経験」は人を成長させる ～「やってみなはれ」～

今年度もあと1週間。皆さんにとって、この1年はどんな1年でしたか。

充実感を持って振り返る人もいれば、できなかったことが先に立つ人もいます。しかし、誰もがこの1年で成長していることだけは確かなことです。無駄な経験など何一つありません。もし、できなかったことがまず頭に浮かんだとしたら、まずは一步を踏み出してください。考えているだけでは前には進めません。いろいろなことに挑戦し、この1年に達成感や満足感を持っている人は、その意気です。さらなる挑戦で、自分の可能性をどんどん広げてください。また、市高全体としても、市高生の活躍の幅がさらに広がった1年でした。

この1年、市高生の様々な活動を見てきて改めて思うことは、「経験は人を成長させる」ということです。自分が経験したことを自らの言葉で語るとき、表情は明るく、自信に満ち、相手の心に自分の言葉をしっかりと届けることができます。そして、その充実感や自信が次のチャレンジにつながり、さらなる成長をもたらします。何かをやり抜いた時、そこにはやってみなければ出会うことのなかった新たな自分があるはずで、やってみてはじめて、自分も知らなかった自分に気づくはずで、

「やってみなはれ。やらなわからしまへんで。」——これは、サントリーの創業者、鳥井信治郎さん（明治12（1879）年1月30日～昭和37（1962）年2月20日）がことあるごとに口にしていたという言葉で、同社では、創業100年以上経つ今でもその精神が引き継がれています。鳥井さんは、未知の分野に挑戦しようとして周囲からどんなに反対されても、「やってみなはれ」の精神で決して諦めなかったそうです。

その鳥井さんを尊敬し、後に「経営の神様」とも言われたパナソニックの創業者、松下幸之助さん（明治27（1894）年11月27日～平成元（1989）年4月27日）にも「ごちゃごちゃいわんと、まずはやってみなはれ」という言葉があります。徹底した現場主義で、理論よりも実践を重んじたという勢いが伝わってきます。また、松下さんには「悩みはあって当たり前。それは生きている証であり、常に反省している証拠でもある。」という言葉もあります。

何かをやると思うとき、そうすることが最善の選択であったり、必ず自分の成長や将来につながったりすることだとわかっている中で、つつい頭の中で、予想される困難や失敗した時のリスクなどに考えを巡らし、無難な選択をしそうになることがあります。それは、真剣に考えていけば当たり前のことなのかもしれません。そんなときには、信念の強さと温かさをもって背中を押してくれる「やってみなはれ」という言葉を思い出してみてください。

市高生の皆さんには、皆さん自身も気づいていない豊かな資質や能力、そして何よりも無限の可能性があります。決して怯むことなく、どんな時でも自分を信じ、一步を踏み出す勇気と覚悟を持ってください。道は必ず開けます。

## 新たな活動に挑戦！ ～3学期の活動から～

今年度も市高生は大いに活躍しました。その都度、少しずつ紹介してきたので、今回は、3学期に入ってからの活躍を、最近のことから順にいくつか紹介します。

### ◆◆ ダンス部が「みんなあつまれ」テーマソング振付ダンス大会に参加

先週の土曜日（3月17日）、ダンス部が横浜赤レンガ倉庫のイベント広場で行われた「みんなあつまれ」のテーマソング振付ダンス大会に参加しました。このイベントは、一昨年、相模原市の津久井やまゆり園で起きた殺傷事件を受けて、共生社会の理念を広げようと神奈川県が企画したもので、昨年10月に開催する予定でしたが台風の影響で中止になっていました。今回の開催では、17日（土）、18日（日）の両日で延べ11万3,000人が来場。会場には様々なコーナーが設けられ、多くの人と一緒に同じ体験をすることで「ともに生きる」ことへの思いを深めました。

当日は、本校ダンス部の2年生が二つのグループに分かれて参加。総合プロデューサーのクレイ勇輝さんが書き下ろしたテーマソング「SO LIFE GOES ON」に合わせてオリジナルの振付でダンスを披露。切れのよいダンス、横浜の海のイメージにぴったりの水兵さんの衣装、そして満面の笑顔で、会場の皆さんにたくさんの元気をお届けすることができました。

### 感謝の電話をいただきました

2月24日（土）の午後、地域の方から本校生徒への感謝の電話をいただきました。その方が、その日の朝、藤が丘駅で体調が悪くなり倒れた際、本校生徒（1年男子）に助けってもらった（心肺蘇生をしたり救急車を呼んだりした）とのこと。すでに体調も回復し、感謝の気持ちを伝えたいということでわざわざお電話をいただきました。

保健体育の授業で学んだ心肺蘇生法を勇気を持って活かしたのだと思います。本校生徒の行いを感謝の気持ちで受け止めてくださる地域の方に心からお礼申し上げます。



本校ダンス部が発刺としたダンスを披露



黒岩知事、桐谷教育長とともに記念写真

当日は、黒岩知事、桐谷教育長もお見えになっていて、お褒めの言葉と感謝の言葉をいただき、さらに知事と教育長を交えての記念撮影。また、解散後にダンス部の歓声が聞こえたので何かと思い見に行くと、楽屋口から出てきたクレイ勇輝さん。何と！クレイ勇輝さんとダンス部の記念写真まで撮影することができました。今回の参加については、引退公演に近いこともあり、2年生の部員で何度も話し合いを重ねたうえでの参加でしたが、参加したことが会場の多くの方の笑顔につながり、たくさんの感謝の言葉をいただいたことで、その後の練習への大きな弾みになるとともに、高校時代のよき思い出になったことと思います。

当日のイベントの様子は、神奈川県庁ホームページ「知事のページ」の中にある「写真で見る！『黒岩日記』」に掲載されています。本校ダンス部の写真も掲載されていますので、是非見てください。

### ◆◆ 合唱部と吹奏楽部が鉄小学校「芸術鑑賞会」にて歌声と演奏を披露

3月12日（月）の午後、本校合唱部（4名）が鉄小学校の芸術鑑賞会に招かれ、歌声を披露しました。同校の芸術鑑賞会には吹奏楽部の部員（3名）も参加。息の合ったコラボで、心を込めて演奏しました。

今回は、小学校での演奏ということで、合唱部の皆さんは、自分が小学生だったころのことをイメージしながらプログラムを組んだり、MC（曲間のトーク）を考えたりしたそうです。また、演奏終了後にやって来た6年生の男の子と女の子に「アルトの声はどんなふうに出したらよいか」を尋ねられ、部員が笑顔で説明する場面もありました。鉄小学校は、1年生から6年生まで全て単学級で児童数168名の小学校ですが、それだけに小編成の本校生徒の歌声と演奏が児童の皆さんの心に心地よく届いたように思います。

翌日、鉄小学校の校長先生からお礼の電話をいただきました。当日の曲の中には、音楽の時間に学んだ歌や映画の歌など児童の皆さんが知っている曲もあり、笑顔いっぱい、時には手拍子でリズムに乗りながら、本校生徒の歌と演奏を楽しんでくれたそうです。また、本校英語科の田中礼子先生が奏でた箏（お琴）の音色、また、グロッケン、フルートの紹介も小学生にはとても新鮮でよい経験になったとのことでした。

鉄小学校は、明治5（1872）年の学制発布の翌年に創設された横浜市内屈指の伝統校で、校内には昔の生活用品や農機具を展示する郷土資料館も併設されています。

### ◆◆ 「市ケ尾ユースプロジェクト」成果発表会

2月20日（火）の午後、青葉区役所にて、昨年の夏から活動を重ねてきた市ケ尾ユースプロジェクトの成果発表会がありました。当日は、青葉区の小池区長、コメンテーターとしてお迎えした大正大学地域構想研究所の浦崎太郎教授のほか、文部科学省の地域協働推進室の方々、大学の先生や企業、地域の皆様、本校の学校運営協議会委員など、たくさんの方がお越しくださいました。

プロジェクトでは、市高生10名が、市ケ尾中学校の生徒17名、地域のサポーター23名の皆さんと一緒に5つのチームに分かれて活動しています。この活動は、都市部進学校の活動として全国的にも注目されていることはこれまでの号でお伝えしたところですが、12月に愛媛で開催された地域教育実践交流集会（文部科学省委託事業）における本校生徒の発表の結びの言葉が、「地域学校協働活動パンフレット」（文部科学省発行）に掲載されることになりました。新年度には、全国の教育委員会に送付されるそうです。

コメンテーターの浦崎教授からは、「大人が高校生を地域に迎えて活動を共にすると、高校生も大人も元気になる光景にいっぱい出会ってきたが、それは人口流出が激しいなど危機感を共有できる地方だから可能であり、首都圏では不可能なことだと思っていた。しかし、今回の発表会で中高生が自分の言葉で表情豊かに発表する姿や、関わった大人の幸福感に包まれている様子を目の当たりにし、そうした先入観は木葉微塵に吹き飛び、大人が子どもや若者に心を寄せ、自分たちで良質なコミュニティを創り出していく努力を重ねる限り、むしろ都会ならではの豊かな体験を届けられる可能性が大きいと確信した」との心強いコメントをいただきました。

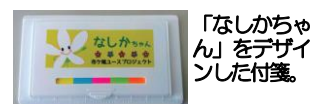


歌声と演奏に聴き入る鉄小学校の児童の皆さん

### わっしょいいちがおスタンプラリー

市ケ尾ユースプロジェクト「わっしょい」チームが、2月13日（火）から18日（日）までスタンプラリーを開催しました。参加する7店舗のスタンプをすべて集めるとオリジナル景品をプレゼント。景品は、「まちに咲く花」チームが制作した青葉区のマスコット「なしかちゃん」をデザインした付箋（ふせん）です。チーム名「わっしょい」は、「わいわい」「つたえよう（伝えよう）」「しろろ（知ろう）」「よろろ（寄ろう）」「いちがお（市ケ尾）」の頭文字をつなげています。リーダーは、本校の上村麻菜さん（2年）。市が尾駅周辺の商店を巡ることで市ケ尾のまちを少しでも知ってもらおうと企画。スタンプのデザインを公募するというアイデアを中高生が提案するなど、若い力で企画を進めました。しかし、実践するにはスタンプ設置店との交渉や予算内での印刷物の作成など、いくつもの課題にぶつかりました。そんな時、地域のサポーターの方々がこれまでの知識や経験で中高生をサポート。地域のサポーターの方から、「中高生から元気と刺激もらった」という言葉をいただき、とても嬉しいです。

今回、スタンプ設置にご協力いただいたのは「丹波甘納豆本舗」「ジョイフロリスト」「酒のあさの」「コッペン道士（どっと）」「C・B・M」「遊楽部」「鳳不動産」の7店。地元商店街がより身近な存在になりました。ちなみに「丹波甘納豆本舗」は、本校の「市高最高どら焼き」をつくってくださる和菓子屋さんです。



「なしかちゃん」をデザインした付箋。

※ なしかちゃんは、平成21年4月、青葉区制15周年を記念して誕生しました。

スタンプラリーには、親子連れや小学生がたくさん参加してくれました。ありがとうございます。



## 中高生が教えるスマートフォン教室

スタンプラリー最終日の2月18日(日)には、「絆(きずな)」チームによる「中高生が教えるスマートフォン教室」がふれあい青葉(横浜市青葉区福祉保健活動拠点)にて開催されました。講師を務めたのは、リーダーでもある本校の正津宏明さん(1年)。実際に操作を始めると様々な質問が出ましたが、各テーブルについている中学生と地域のサポーターが受講者の質問に丁寧に答えていました。

同チームは「多世代の交流による地域の活性化」をテーマに「青葉区民まつり2017」(11月3日)にてアンケートとインタビューを実施し、その結果をもとに今回の講習会の実施を決定しました。当日は、60代後半から70代前半の方8名が参加し、最初は少し遠慮がちだったものの、すぐに和気藹々とした雰囲気の中で熱心にスマホの操作を学んでいらっしゃいました。

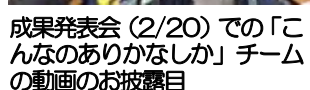
受講後のアンケートでは、講習会の継続を望む声が多数寄せられ大好評でした。



高校生講師の説明を熱心に聴く受講者。



動画には「なしかちゃん」も出演!



成果発表会(2/20)での「こんなのありかなしか」チームの動画のお披露目



セカンドキャリア取組報告会(3/10)終了後に取材を受ける本校生徒と当日のファシリテーター妹尾昌俊氏(NPOまちと学校のみらい理事)

その他、参加した中高生のアンケートでは、多世代とのコミュニケーションに抵抗がなくなったことや課題があっても皆で乗り越えることができたときの喜びや楽しさ、達成感のほか、社会や地域への貢献に対する強い思いなど、確かな成長を感じさせる感想がたくさん寄せられました。

また、3月10日(土)には青葉区役所にて「あおばセカンドキャリア取組報告会」が開催され、「あなたの力の1%をあおばの未来に!」を合言葉に、青葉区が展開してきた市ケ尾ユースプロジェクトを含む3つのプログラムの取組状況が報告されました。

チーム名	主な活動
ICHI グルメ	地場野菜を使った中高生考案のレシピで、市ケ尾発のグルメで地域を活性化。商栄会青年部との連携で地元食材「わさび菜」を使った「さんどいっちがお」を青葉区民まつり(11月3日)にて販売。さらに、地場農産物直売所マップやあおばマルシェ(地元のとれたて野菜や加工品を販売)紹介チラシを作成。
わっしょい	幅広い世代に市ケ尾をアピール。誰でも参加でき、誰とも交流ができ、誰もが楽しめるイベントとしてスタンプラリーを実施(2月13日~18日)。青葉区民まつりで募集したスタンプデザインへの応募者は約200人。スタンプ台紙は市高生がデザイン。
まちに咲く花	青葉区のマスコット「なしかちゃん」グッズの制作を通じた「なしかちゃん」と市ケ尾ユースプロジェクトの知名度アップ。グッズ制作にあたっては、青葉区民まつりでアンケートを実施。制作した付箋(ふせん)は、わっしょいチームが実施するスタンプラリーの景品として参加者にプレゼント。
絆(きずな)	多世代交流による地域の活性化。青葉区民まつりでのアンケート及びインタビュー調査の結果をもとに「中高生が教えるスマートフォン教室」を実施(2月18日)。
こんなのありかなしか	動画による「なしかちゃん」と市ケ尾のまちの紹介。市ケ尾周辺の遺跡や商店街、青葉区のマスコット「なしかちゃん」を全世界に発信。動画には、小池区長も出演。

## 第6回キャリアアップ講演会 Special Event ~ 働く社会人のキャリアを学ぼう ~

3月19日(月)の3、4校時に本校体育館にて「第6回キャリアアップ講演会 Special Event」を開催しました。社会で長く活躍する卒業生をお迎えしての念願の講演会です。当日は、6期生の矢野達男さん(昭和57年(1983)年3月卒。ITセキュリティコンサルタント)、7期生の仁井田尊史さん(昭和58(1984)年3月卒。公務員)、8期生の東みちよさん(昭和59(1984)年3月卒。一般財団法人代表理事。ライフスタイルジャーナリスト(東ミチヨ))、24期生の白砂孝洋さん(平成12(2000)年3月卒。一級建築士)の4名の卒業生がご登壇くださいました。講演会では、本校卒業後から現職に至るまでの経歴や経験、進路選択を含めた自己紹介、社会人としてのやりがいや生きがい、高校時代の思い出、後輩へのメッセージなどを語っていただきました。

矢野さんは、高校の地理の授業で、先生が世界で何が起きているかを語ってくれたことから世界中にいろいろな課題があることを知って視点が変わり、農業問題や食料問題に興味を持ち、もともとの志望であった電子工学系に進むか、農学系に進むか非常に悩まれたそうです。結果的には、電子工学系の学部に進学しましたが、高校時代に視点が変わったことが、後に外資系企業に入社し、スタンフォード大学に留学するきっかけになったとのこと。ご自身が世界の国々を対象に仕事をされていることもあり、「是非日本の外に目を向け、日本国内に留まらず、国際的に活躍してほしい。そのためには、英語だけではなく教養、素養を培うことのできる高校での日々の学びがとても大切である。」というグローバルなメッセージが在校生に贈られました。市高時代はバレーボール部に所属し、毎日練習に明け暮れた体育館をととても懐かしがっていらしたのも印象的でした。

仁井田さんは、本校のすぐ目の前の横浜市資源循環局青葉事務所の所長を務められ、本校の学校運営協議会の委員



各分野で活躍する卒業生(6・7・8・24期生)が登壇

でもあります。本校卒業後、横浜市役所に入庁し、働きながら大学を卒業され、横浜市の職員として様々な分野の業務に携わり、市民の皆さんのために役に立てることがやりがいにつながるとのこと。「終わりの見えないことはつらく感じるが、それを乗り越えると必ずそれが身になっている。市高生は仲がよく、今でもつきあいが続く一生の友である。先生方とも今でもつながっている。人との縁を大切にしてほしい。」とのメッセージ。

東さんは、高校時代のある時までには特に課題意識を持たずにいたけれど、高校の修学旅行で広島に行き、世界が広がり、市高の仲間と社会科学研究会を立ち上げたとのこと。とても意識の高い高校生でいらしたことに驚きます。そして、その課題意識が、現在携わっている「ローフード」(資源やエネルギーの無駄を抑えた環境に優しい食材や調理方法)の提唱につながっているのだと思います。「高校は勉強をする所だが、一生の友を見つけられる場所でもある。何のために勉強をしているのだらうという疑問を持つこともあるかもしれないが、一見関係のないようなことも必ずどこかでつながり、決して無駄にはならない。」とおっしゃっていました。

白砂さんは、いくつもの建築賞を受賞されている新進気鋭の建築家。最近「目の前のお客さんの要望に応えるだけでなく、見えないお客さんのニーズに応えたい」という思いで建築家になった原点に立ち戻り、まちづくりにも力を注ぎ、地域おこしの企画にも参画。仕事の異なる仲間とともに愛媛県内子町にてクラウドファンディングを利用した古民家ゲストハウスを立ち上げました。後輩へのメッセージとしては「勉強は常に大事。仕事を選ぶとき、自分がある位置にいないければチャンスに手を挙げるのができない。現在の仕事の半分は、中学校、高校、大学の友だちとの関係の中にある。人とのつながりを大切に、人間力をあげることが必要である。」

最後に生徒からのお礼の言葉と4名の卒業生にそれぞれ花束が贈られました。時間の関係で、体育館では質疑応答の時間を持てませんでしたが、4名の生徒が先輩たちを応接室に訪ねてきました。後輩たちの質問に丁寧に答えてくださり、熱心な後輩の姿勢をととても喜んでいらっしゃいました。

生徒の振り返りの感想では、先輩たちの活躍に勇気と希望をいただき、自分にも何かできそうな気になった、自分も先輩たちのように社会で貢献したい、目の前の大学進学の前にあるものが見えてきたように思う、まずはやってみることで見えてくるものがあることに気づいたなど、講演会をとおしてまた一步よき大人に近づいたように思います。

## 人権教育講演会 ～ホームレスとは～

3月20日(火)の3、4校時に、本校体育館で人権教育講演会を開催しました。

今回の講師は、ノンフィクションライターの北村年子さん。北村さんは、ホームレス襲撃事件の取材を経て、平成20(2008)年に「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」を創立。FMヨコハマホームレス問題について深い思いのこもったお話でした。

講演は、「Homeless(ホームレス)」という言葉は「人」を指す言葉ではなく、安心できる居場所がない「状態」を指すのだという話から始まり、自分は生きる価値があるという「自尊心」があれば、何があっても生きていけるという言葉は、市高生の皆さんの胸にも深く残っていることと思います。

講演の中で観た映画『ホームレス』と出会う子どもたちでは、大阪の釜ヶ崎の子ども夜回りの様子と野宿生活を送る男性の一日を通してホームレス問題に迫り、居場所(ホーム)なき子どもたちの弱者いじめの問題を問い直しています。

講演の結びでおっしゃっていた「無知は恥ずかしくない。無知は『知』になるが、最も怖いのは『無関心』。無関心は暴力に等しい」「愛の反対は無関心。無関心は命を凍らせる。」「相手のためだけでなく、自分を好きになるために、自分をもっと肯定するために、人にありがとうを言ってほしい。人と関わってほしい。」という言葉を深く心に留めておきたいと思います。私たち一人ひとりがかけがえのない存在であり、誰もが尊重にされるべき存在であることを強く感じさせてくれる講演会でした。

♪♪♪合唱部定期演奏会♪♪♪ 皆で聴きに行こう！  
4月3日(火)17:30開演 青葉公会堂 リハーサル室

## 市高生が題字を揮毫

本校2年生の二唐彩乃さんが、神奈川県教育委員会が発行する『心みつめて(第7集)』(人権教育の推進を図るため、心に響く詩や作文等を集めた読み物資料)の題字を揮毫。二唐さんは、昨年度の高等学校書道展で教育長賞を受賞しています。



## おやじの会餅つきイベント

3月18日(日)、さわやかな晴天のもと、本校中庭(愛称:ポニーの丘)にてPTAおやじの会餅つきイベントを開催。部活動等で登校していた生徒200名以上が、つきたてのお餅を味わいました。黄な粉や餡子といった定番から、カラムーチョやチョコレート等、いろいろな味や食感を楽しみ、笑顔あふれるひとときになりました。



『ビッグイシュー』は、定価350円。ホームレスである販売者が路上で販売し1冊180円が収入になります。私は、関内に出張に行ったときに必ず購入しています。内容も充実!

## 雨天でも元気いっぱいの球技大会

3月22日(木)球技大会を実施。生憎の前日の雨で雨天対応(男女サッカー、ドッジボールは卓球に変更)での実施でしたが、選手は勿論、クラス一丸となった元気いっぱいの応援は、さすが市高生。見ているだけでも気持ちのよい光景でした。

【男子バスケット】1位:1-4 2位:2-10 3位:2-7  
【女子バスケット】1位:2-5 2位:2-9 3位:2-3  
【男子卓球】1位:1-1 2位:1-5 3位:1-3  
【女子卓球】1位:2-5 2位:2-7 3位:2-1  
【混合バレー】1位:1-1 2位:2-2 3位:2-10  
【卓球(ドッジ)】1位:2-4 2位:2-7 3位:1-1